

期間：2018年10月11日（木）～2018年10月15日（月）

場所：中国吉林省延吉市

●大会

名称：第2回キンボールスポーツアジアカップ2018 大会期間1日（10/14）、
2018キンボールスポーツ中国オープン 大会期間1日（10/13）

- ・アジアカップ（各国代表）男子6つの国と地域の代表、女子6つの国と地域の代表
日本、韓国、中国、香港、マカオ、シンガポール
- ・中国オープン（オープン大会）
2部門 男子の部14チーム、女子の部11チーム 計25チーム
日本より男子2チーム、女子1チーム

結果：

- ・アジアカップ（各国代表）
男子 優勝／日本 準優勝／韓国 第3位／シンガポール
女子 優勝／日本 準優勝／韓国 第3位／中国
- ・中国オープン（オープン大会）
男子 優勝／日本A 準優勝／韓国1 第3位／日本B
女子 優勝／日本 準優勝／中国のチーム 第3位／中国のチーム

雑感：

●都市の印象

- ・開催地の延吉市は思った以上の大都会。中心部から車で1～2時間離れても驚くほど田舎というかんじではなかった。
- ・物価もさほど安くない。感覚としては2/3か3/4程度。
- ・人口の6割程度が朝鮮民族の朝鮮自治区なので、看板等は中国語、朝鮮語併記。英語表記が少ない。
- ・食事は合う人、合わない人がいた。朝鮮自治区なので辛い（スパイシー）。
- ・英語が通じにくかった。

●大会

- ・中国の担当者が日本留学経験者で大阪府連盟に所属していた関係もあり、ほぼ全ての面においてとても日本風な運営であった。
- ・看板等にお金をたくさん使ったと思われる力の入った大会であった。国立大学よりの資金多額の模様。
 - 看板、横断幕、屋外アドバルーン、入り口各種看板、販売グッズ、開会式、フェアウエルパーティー、体育館門構え、観客動員の多さ（10/14の開会式時、決勝時）
 - × 体育館床、動員された観客の興味のなさ（試合を見ていない感じであった）
- ・宿泊地のホテルも会場に近い。大学まで数分。体育館までそこからあと15分。

- ・運営担当者 20人～30人程度。
- ・10/14 アジアカップ開会式が計画より中身が増えたため、時間を費やした。中身はかつてないほどとても盛大であった。
- ・動画配信が2日間の大会期間中に行われた。日本での愛好者によるといまひとつの内容であったとのこと。時々固まる、遅いなど。
- ・体育館の面構えは立派であったが、建物は古く、コートのもともとも老朽化していた。
- ・音響担当はプロが対応。
- ・レフリーのレベルとしては日本と韓国の4名は安心してみる事ができた。中国の4名はクレームを言うほどではないが経験不足が否めないところはあった。
- ・参加賞はオリジナルのタンブラー。メダルはオリジナルタイプであった。
- ・販売品はミニボストンバッグ、Tシャツ、キーホルダー、プラスチックリストバンドほか。値段の設定もよく、活況であった。
- ・プログラムはカラー印刷。対戦表に不備があったとのことで、終了後に新しいパンフレットが配布された。
- ・ウエルカム食事は大学内で行い、アルコールなし。挨拶が多く交流する時間がなかった。
- ・フェアウエルパーティーは立派で、交流も十分でき、盛り上がりもありよい会であった。

●その他

- ・事前に全体（大会受付、ウエルカムパーティー、代表者会議、2大会、懇親会）の時間、場所等の詳細がよくわからなかった。中国に着いてからも書類は特になく、その都度の連絡であった。今回大きな問題はなかったが、スケジュールの把握・管理が各個人ではできず、担当者ひとりに負担がかかることになるので、できれば書類は必要だと感じた。
- ・全体として、スロバキアでのヨーロッパカップ（兼ワールドクラブチャンピオンシップ）と比べると新しい形のものには特に感じられなかった。ただし、演出面など日本のワールドカップ、アジアカップを参考にしているが、考えて周到に準備されていたものも多かった。
- ・大会の責任者しかわからないことも多かったため、その者が忘れていたり抜け落ちることとなる。レフリーの出迎え、開会式でのトロフィー返還、ボールのロゴ印刷ミス、IDカードが一部不足など。全体としては大変よくできた大会であった。

●各国情報

○日本選手団 選手 男子12名、女子12名、コーチ5名、役員・スタッフ4名 計33名

- ・結果 10/14 アジアカップ 男女ともに2連覇 1ピリオドも落とさず。

○中国

- ・運営に力を入れていたせいか、チーム力アップとはならず。
- ・運営としてはキンボール愛好者の若い力（大学卒業生、大学生）の活用が目立った。

○香港

- ・次のアジア大会への立候補があった。最終的には韓国に譲る形で辞退。
- ・選手紹介など、ビジュアルとしてフェイスブック等の画像がきれいで上手い。

- ・来年、夏に日本人コーチを招聘する計画もあるほど熱心である。

○シンガポール

- ・躍進の男子第3位。
- ・新しいユニークな戦術。ピンチサーバー。概ねヒットだけする大柄選手。

○韓国

- ・世代交代 高校生、若い高校の先生中心。現在は徴兵制度（18歳～25歳の間に2年間、各自の都合のよいとき）の絡みもあり大学生は少ない模様。
- ・横断幕掲示などスポンサーへの配慮は今後見習わなければならない。
- ・次回第3回大会は2020年に韓国・ソウルで実施決定。

○マカオ

- ・主要なメンバーは2年前と同じ。

○他

- ・新しく台湾からの愛好者も来訪。
- ・北朝鮮からの視察もあり。同大学で別の学会参加の絡みで参加。
- ・アジア連盟会議実施 TPUインナーボールのサンプル、次回大会開催地決定・韓国、規約の完成について

※チューリップテレビ（富山県）、中日新聞、北日本新聞2回、富山新聞等の富山中心のメディア掲載。
フジテレビ「めざましテレビ」（11/5放送）あり。

※その他、動画、写真は日本キンボールスポーツ連盟フェイスブックページに掲載。

<https://www.facebook.com/JAPAN.KINBALL.sport.FEDERATION/>

フェイスブックは機能上、新しい記事が上部になりますので、10月12日から10月17日時点の記事を中心にご覧ください。